

第2回長井市スマートシティ推進協議会 議事録

開催日時：令和4年12月27日（火） 13時30分～15時30分

開催場所：長井市役所2階庁議室

出席者：34名（構成員24名、事務局10名）

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
 - (1) スマートシティ長井実現事業の進捗について（資料1）
 - (2) 今後のデジタル技術を活用した施策について（資料2）
- 4 その他
- 5 閉会

【議事録】

1 開会

2 あいさつ（内谷重治市長）

今年も残すところ5日という皆様極めて御多忙の中、第2回長井市スマートシティ推進協議会に急なご案内にもかかわらずご出席を賜り厚く御礼を申し上げます。

スマートシティ長井実現事業については、昨年度から、東北あるいは県内でも先駆けて国の地方創生推進交付金の採択を受け、5年間の取組みを進めているところ。今年度は2年目ということで、事業の進捗状況や課題などをご報告させていただき、皆様からご意見やご要望を頂戴したい。

岸田内閣では2023年度から2027年度までの5年間で、東京1都3県から地方に毎年1万人の移住者を目標とし、首都圏から地方に移住する場合は仕事を一旦辞めて違う仕事につくというのが一般的な考え方であるところ、テレワーク等で転職なき移住を目指すとしている。加えて、デジタル田園都市国家構想によるさまざまな事業を展開しながら、年間1,000を超える新たな起業を目指していきたいとしている。

デジタル田園都市構想では、全国でさまざまな事例が少しずつ出てきており、本日はそうした事例の紹介をさせていただきながら、次年度の事業に向けて、本協議会で意見交換をたく、なんとか年内に開催させていただいたところ。

スマートシティ長井実現事業では、現在、スマートストアの設置やながいコインの配布など市民の皆様が目に見える形でデジタル化を進めていることに加え、例えば有害鳥獣の遠隔での見回りやまちなかの小河川の水位監視など直接市民の皆様が目につれないところも安全確保につながるデジタル化を進めている。また、多くの自治体や議会・民間企業・大学などさまざまな団体から関心をお寄せいただいております、これまでおよそ30の団体から視察もいただいております。やまがたアルカディア観光局と連携してその視察旅行プランなども組ませていただき、各方面から注目をいただいている取り組み。

引き続き皆様には事業にも参加いただきながら共にスマートシティの実現に向けてご協力いただきたくお願い申し上げます。改めて本日の会議ではスマートシティ長井実現事業の実情についてご報告を申し上げますとともに、今後のデジタル化について、本日お越しの皆様からご意見を頂戴し、更なるデジタル化に向けたチャレンジを進めて参りたい。本日はどうぞよろしくお願いしたい。

3 協 議 [座長=齋藤環樹副市長]

- (1) スマートシティ長井実現事業の進捗について
- (2) 今後のデジタル技術を活用した施策について
資料1、資料2に沿って、事務局から説明。

(構成員)

有害鳥獣対策について、モーションセンサーカメラの取り付けは、クマやイノシシの出没を遠隔で確認できるようになったことで、速やかな罠の設置や捕獲に対しても効果的なものとなっており、非常にいい取組みだと考えている。今後の展開として、デントコーン畑に熊が出没した際に、人力で探すことが非常に大変になっている。その対策として、サーモカメラを搭載したドローンを活用して、熊がいる場所をピンポイントで特定することができるような取組みを今後の検討課題の一つにあげていただきたい。

(構成員)

長井市において担い手と言われるメンバーは198人しかいない。平均年齢も65歳を超えている状況であり、今後ますます担い手が減少することが目に見えている。地方に毎年1万人の移住者をという話が先ほどあったが、全国で移住者を取り合う形になる。ぜひ、農業を希望する移住者が来るような取組みを進めてほしい。また、特に若い世代においてドローンの需要が増えていると思うため、ドローンの購入や講習の受講の補助率を上げていただくなど、ドローンを手にしやすい環境を作っていただきたい。

(内谷市長)

現在、農業の法人化がかなり進んでおり、また家族経営でも法人化して、より効率的に国の補助金なども受けられやすいような取組みをなさっていると思う。ただし、今後、スマート農業を推進していくにあたっては、行政だけでは取り組めない。資料2の5ページにある四万十町のような取組みを横展開で長井市でも取り組もうとしたときに、農林水産省の補助事業でどういったものが使えるかといったこともあると思うが、私どもとしては農家と行政が一緒になってやらないとできない。できれば農業関係者の皆様の声があり、具体的に実施しようとなったときには、デジタル田園都市構想推進交付金をいただいて、スマート農業にチャレンジするということができると思う。今、NTT 東日本様からデジタル専門人材とグリーン専門人材の派遣をいただいているが、NTT 東日本様には関連企業がたくさんあり、例えばドローンの専門の会社や、私どもで今考えているバイオマス発電の会社などもある。今後、担い手連絡協議会様や農業者の団体で、ぜひスマート農業について詳しく説明してほしいといったことを声がけいただければ、私どもとNTT 東日本様からもご協力いただくあるいはJA様にもご協力いただいて、具体的にどうするかということの検討をスタートできるかと思う。ぜひそのようなご協力をいただけるようお願いしたい。

(構成員)

仕事柄、河川の水位が非常に気になる。今年8月の豪雨のときもそうだったが、最上川に関しては水位とかライブカメラもあって、山形河川国道事務所のホームページを通していつでも見ることができるようになっている。最上川のパトロールもやっているが、常に水位の状況を見ながら、そろそろ出なければいけないとか、そういった形で準備もできる。同様に小河川の水位監視は非常に有効に使えるのかなと感じている。例えばタスの横の野呂川は、最上川の水位が高くなると野呂川に水が上がってくるので、水門が開まってしまう。ところが内水からの水も上がって水位が上がるといった状況にどうしてもなるので、そういった要所について、カメラや水位の情報を常にとれるようだといい。はぎ苑のところの線路下も、ちょっと水が上がるとすぐ冠水してしまうというような場所。そういった要所でカメラなり水位なり分かるようにしていただければ、我々業者の方も非常に有効に準備もできるので、できるだけホームページでの公開が早く進んでいただけるとありがたいと思う。

(内谷市長)

現在、市内20カ所にカメラとセンサーを設置している。河川の状況がどのような具合になるか実

証してみないと分からないので、一般公開はしていないが、来年からできるか再来年からできるかということで広く公開できるよう検討している。その場合には簡単に見ることができるようにしたいと思うので、もう少しお待ちいただきたい。

それから、これはデジタル田園都市国家構想推進交付金でやっているが、市営バスにカメラを取り付け、道路障害を判断するシステムの導入を進めている。将来的には AI で積雪を判断できるような取り組みも検討を進めている。どのくらいの雪が積もったら、除雪の出動を依頼するかを AI が判断し、積雪状況を見てその時点で適切な委託事業者に除雪をお願いするようなことができるのではないかと。今はご承知のとおり夜の 2 時くらいから市内一斉に何台かで見て判断するが、その後一気に雪が降ってきたときに、朝になって全然除雪されてないということがある。この監視カメラとデータ、AI というのは今後いろいろな意味で使えると思っている。

(構成員)

建設分野でのドローンを実際に使っている。今年 8 月 3 日の豪雨で飯豊町では災害になったが、そこで実際にドローンを飛ばして測量を行っている。ドローン導入前だと、雨が降って水が溢れたときは、実際に現場に行くのもなかなか大変だったが、ドローンを使うことで、河川が壊れているところ、先程の映像のように人が行けないようなところも測量でき、迅速な対応をさせていただいている。我々ではそういった使い方をしていて、ドローンをどのように活用していくか、どういった貢献ができるかというのを、今後いろいろ検証、検討していただければ、できる範囲でご協力したいと思っている。

また、インフラの点検、橋梁点検など 5 年に 1 回義務つけられている仕事がある。そういったところでも新しいドローンを今後活用していかなければならないと思う。特に長井ダムの竜神大橋というとても大きい橋があるが、その点検は橋が大きすぎて東北地方に 3 台くらいしかない点検車を持ち込んで点検しなければいけないということもある。そういったことも新しいドローンの技術を使って点検ができるのであれば、またいろんなことが変わってくると思う。

(構成員)

数年前からドローンスクールというのを開始しており、消防署の方などいろんな方に受講いただいている。ビジネスの割合はドライビングスクール、運転免許教習の方が圧倒的に大きく、苦労しながらやっている。やはり今注目も浴びているので、もう少しこつこつ続けていくが、ドローン教習の範囲を広げるように経営側の方に訴えていきたいと思う。

(構成員)

市営バス路線に GPS を組み込み、バスの情報データを把握できるようにしているということなので、ぜひこれが一般的に使いやすくなり、列車にも乗せて利用状況に把握できるようになればと思う。特に列車に GPS を組み込み、どこにいるかという情報があると、冬期間や大雨のときに運休した際、列車が今どこにいて自分が待っている駅にきてくれるのかというデータが分かるかと思うので、そういったシステムもできればといった期待が大いにある。

(構成員)

昨年度から、長井市と一緒に二人三脚でスマートシティ化を進めている。昨年はまずは作って試してみようというところだったが、今年度はデータが溜まってきている。そのデータを活用して、どう長井市の市民の方や企業の方々に活かせるかというところまで来た。こうした会合を通して、皆さんのご意見を聞きながら、今後もよりよくしていきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(構成員)

改めてデータ化する重要性を認識させていただいた。そうすることによっていろんな現象、方向性が本当に明確になり、今後どうしていけばいいかというような大きなデータになっていくと思った。

実際、私どもはいろんなプロジェクトに携わっているが、その中で e スポーツについてはいろんなところで産声をあげ始めている。米沢でもスタートした。まだまだいろんな意味で認識されていない部分が多々あるが、やらせていただきながら少しずつ方向性も見えてきてきた。いろいろ行動させていただく中で、我々が実際分からないのにどうやっていくのかということで、12 月に全社員で e スポーツの大会をやった。思ったより皆興奮して、チームワークで楽しむスポーツなのだ改めて認識さ

せていただいた。

今後については、今まで Ne-st でゲームをしていただいた方が、だいたい今年5月以降でまだ300名くらいなのですが、今後さらに皆さんにご活用いただくためにということで、免許宿の方にも、チラシをまかせていただくとか、地元の会社にも隠れた e スポーツプレイヤーがたくさんいるので、そういった方々に利用していただけるような企画をさせていくということで、ビジネス的にはまだまだだが、切り口としてはそういう形で進めさせていただければと思っている。

(構成員)

市役所並びに伊佐沢のスマートストアの担当をさせていただいている。特に伊佐沢の方では、11月から冷凍庫の設置をさせていただいて、破棄のすることがなく、長く品質を保った形で置けるようなものを品揃えとして、現在分析をしているところのためご不便かけしているがよろしくお願ひしたい。

またスマートストアとは違ったところで、タスビルのコワーキングスペースプラスツーで、高校生並びに中学生の ICT クラブの支援をさせていただいている。皆さんもご覧になったかもしれないが、山形ふるさと CM 大賞で、今回、長井市の高校生がスクール部門で大賞を獲り、その支援もさせていただいた。あと、長井北中と長井南中から女子生徒に集まっていたら、AR を使った街歩きを実証実験で作ろうということで、自分たちが得意とするイラストをアニメーション化して、GPS とスマートフォンを結び付けて、Z 世代の子供たちがいかに街を楽しく知るか、またこの水のまち長井が、広く若い世代にも知ってもらおうということで取り組みを始めているところ。年明けにはおおよそできる形なので、またお披露目する機会があれば皆様に見ていただければと思う。

(構成員)

資料1の18ページで、特に8月の水害では、今回は特に飯豊町がひどく、我々は管轄が西置賜全域なので、内水氾濫というところで活動させていただいた。水位は本当にどんどん増えて、数時間で川が氾濫し、橋が崩壊したと情報があった。我々も現場に行って、対応して帰る途中に退路がなくなってしまったということも実際あり、迂回をして署まで戻ることもあったので、このようなカメラでリアルタイムにその情報が確認できるのであれば、退路や自分の命を守るといふこともあるので、そのようなところで活用できればと感じた。

(構成員)

主にデジタル地域通貨ながいコインを担当させていただいている。事業者の中にはご高齢の事業主の方で、なかなかスマホの取り扱いが難しい方もいらっしゃるが、ちょうどコロナ対策で、国の持続可給付金や支援金などがスマートフォンでその申請を行う仕組みになっていたため、そういったものをご利用された事業主の方が結構いらっしゃるということもあり、思ったほどながいコインの導入に関しては苦勞せずに進めることができた。店舗のフォローも我々の職員で担当しているところ。まだ166店舗なので、紙ベースの商品券の260店舗の登録に比べたら、まだ少ないという状況。どうしてもレジで様々なキャッシュレス決済の対応もあるため、そうした煩雑さを店舗でちょっと遠慮するという部分があり、普及にはもう少し工夫が必要な状況。

そうした中で店舗の購買傾向データなどを取得しているということなので、そちらをご提供いただけるということであれば、経営の向上に資するツールの1つとして、このながいコインを活用できると思うので、ぜひご検討願ひ。市民に対してなんらかの形でながいコインの利用促進になるような事業を今後も徹して参りたい。その際にはどうかご協力をお願い申し上げる。

(構成員)

デジタル化によって格差社会が大きくなるだろうと言われている。少子高齢化の中で便利になるが、時代の流れに乗り遅れる方がでてくる。ホームページやスマートフォンアプリという言葉についていけない人達にも恩恵が届くようにしていかなければ成功とは言えないと思った。

データ活用は、とても有用で、高齢者のいる時間帯や地域での高齢者の見守りでも使えるし、頻繁に自動車が動く時間帯や県外車両が流出、流入する時間帯についても広報啓発や事故防止の活動などに有用に使える。こういったデータの流用活用ができるようにビッグデータの状態で誰でも触って分析をしてその時間帯や対象にむかって安全の情報をだすことができるようなデータ活用についても、オープンにして使えるようになれば皆さんが有用に使えるようになると思う。

あともう1つが、技術の流出。最先端をやる以上、必ず新しい発見やひらめき、気づきがでてくる。多分すごいことを長井市がやっていくと思うが、反面、例えばこれが世界初とか運用に使われる新技術となったときに、共産圏に技術が流出していくようなことになれば、また違った問題がでてきてしまう。新しいものに取り組む中でこれから技術の流出や危機管理の部分も重要になっていくだろうと思う。長井市のスマートシティは組織内でも注目されており、ぜひ安心安全のことで、いろんな相談やこちらからも技術の伺いをしたいと思っているので、今後もよろしくお願ひしたい。

(内谷市長)

最初にコメントいただいたデジタルの格差社会。これはもっともで1番心配されること。この間も中学生に講話をしたときにスマートシティの話をしたところ、スマホを使えないお年寄りが少なからずいて、そうした人たちはなかなかこのスマートシティの取り組みに関われないのではないかと、その辺どのように考えるかと中学生からも言われ、本当にもっともだと思った。

長井市は約1万世帯だが、その4分の1の2500世帯が65歳以上の1人暮らしあるいは2人暮らしの世帯。1人の単身の方あるいは夫婦の方が多い。スマホは若い人はもちろん40代50代までは問題なくいろいろ使える人が多いと思う。ただ60代70代80代は非常に難しいだろう。

今年の春から6つのコミュニティセンターを、長井市のコミュニティセンター協議会として法人化していただいた。尚且つ主事を増やし、いろんな業務を支え合う地域づくりを地域ごとの特色を活かしながら進めていこうとしている。そういった中で、スマホ教室なども実施したいが、コミュニティセンターや民間企業に加えて、ぜひ郵便局も加わってほしいと考えている。コミュニティセンターと郵便局はどこの地区にもあるわけなので、少し時間をかけながら誰もがスマホを使えるように頑張りたい。また、データの共有についても相談させていただきたい。

(構成員)

先ほどより説明を受けた中で面白いなと思ったのが、道の駅でのナンバープレートの分析をされたところ。こちらはマーケティングでの活用として、今後は観光の政策とか誘致活動などに活かせるのではないかと。ぜひこういった取り組みを継続して進めていってもらえたらと思う。また金融機関がお客様のところをまわる中で、特に法人のお客様の経営課題はなかなか人が採用できないこと。金融機関としてもいろんな人材紹介など使いながら取り組んでいるが、いかんせん人口減少というのが止まらないという現実がある中で、今後このスマートシティの取り組みの中で、例えば人口減少を食い止めるための子育て支援への活用や県外に流出した学生をいかに戻していくかというIターンUターンへの取り組みにぜひ活用いただければよいと思う。

(構成員)

まず、2年目に入っているということで、資料の中でデータ等の活用、こういったところの展開について説明をいただいたが、1つは先ほど意見にもあった高齢者のところに対して手厚く、まずは使えるような形にもってくるよう取り組みをいただきたい。あとデータのところがまだ積み上げの段階なので、何とも言えないが、いずれにしろ各市民の方にこのデータがこのように活用できるということを、やはり物理的な媒体でも説明をいただくことで、市民の方にも浸透できれば、こういう利点がある、こういうことを市民としても知ることができるというように繋がっていくかと思う。ぜひその辺のところに関して、あと3年あるわけなので、市民への浸透を図っていただくようお願いしたい。

(構成員)

先ほど市長からお話ありましたが、スマホの学習会や勉強会というようなことを各コミセンでも、高齢者を対象に実際にやらせていただいた。ただ、スマホを持っている方だけなので、先ほどお話がありましたようにスマホを持ってない方へのPRはまだまだしなければならぬと思う。様々なデータをとっているが、そのデータを即活かせるようなスタイル、例えばバスの乗車データを分析していただき、例えば金曜日はこの方面が多いというようなことであれば、そちらの方に向かう車両を多くするなど対応していただければと思う。ただ長井市民の方々の中でもお年寄りの方にはまだまだPR不足だと思う。ぜひその辺をよろしくお願ひしたい。

ながいコインのところで実際に流通された金額の残額が1割ほど残っているわけですが、多分これは12月に使われてまずほぼ99%になるだろうと思うが、なかなか市民にも理解が得られないところも

多々あると思う。その辺についても PR をお願いしたい。

(内谷市長)

おっしゃるとおりで、最初のながいコインプレミアムは 99% くらい利用されたが、2 回目のながいのまちサポートがちょっとまだ利用されていない。そもそも受け取られていない方も結構いらっしゃる。今回、マイナンバーカードを所持又は申請した方に 1 人 5000 円分を配布したが、こちらは順調にご利用いただいている。2 回目のところが少し PR 不足か、これは分析しなければならないと思っている。マイナンバーカードの 5000 円分もそうだが、商工会議所の方で進めております BUY 長井運動のように、地域内で循環することの経済効果は、すごい効果があるというのを NTT 東日本様と実証実験したときにもデータがでていいる。特にコロナで景気が厳しいわけなので、できるだけ地域内で買い物してもらおうようにしていきたい。来年度あたりから、健康ポイントやエコポイント、ボランティアポイントなど、市民の皆さんがそうした活動をされたときにながいコインとして付与するつもり。そうしたことで徐々に浸透させていきながら、やっぱり皆で地域での買い物も進めていこうというふうに頑張りたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

(構成員)

マイナンバーカードの普及状況は、現時点でどのくらいか。

(内谷市長)

マイナンバーカードの申請率で 73%、これが全国 1741 の自治体で 87 番目。県内では西川町が 1 番目、2 番目は飯豊町、県内の市では長井市が断トツでトップ。

(構成員)

市で各地区のローラー作戦をしていただき、私の身近な地区でもずいぶんそこで申請が進んだ。その後もお年寄りにロコミで伝わってきてその地区の市職員が対応してくれて、そこでどんどん進んでいる。

マイナンバーカードも今度は社会保険と口座指定のポイントがあり、今申請が進んでいると思うが、お年寄りの方はどうもマイナンバーカードをもらおうと 15,000 円が口座に振り込まれると理解をする方もいらっしゃる。

そのマイナンバーカードとスマホの間の仕組みのことがよくわからない人が、近くの若い職員に教えてもらった、または見せてもらった、あるいは市役所にお邪魔して手続きしてもらったというようなことが、長い目で進めば、ながいコインを通じてよりデジタル化の追求、デジタル社会への理解が加わってくると思う。

一方、タスについて、先ほども話しがあったがコワーキングスペース、e スポーツのスタジオを管理させていただいている。コワーキングスペースは 2 階に、ワーケーションの部屋が 3 階にある。コワーキングの方は開業から 500 人の方にご利用いただき、ほとんどはデジタルを使うビジネスの方。ワーケーションの部屋は当初利用が少なかったが、最近は楽天トラベルなどのセット商品に組んでもらった結果、前の日に前泊して長井にきて、1 日長井で仕事をして泊まる。そして次の日の午前中ワーケーションの部屋で働いて午後から東京に帰る。このようなパターンでお使いいただいているようだ。先般、大雪で大変だった際に、ワーケーションの部屋を使った方は、そこから見える最上川の東山の水墨画のような風景を SNS にアップしたところ、上司から何しているんだと言われるような、そのようないいワーケーションで仕事ができたとのことだった。これからも頑張っていきたいと思う。

(構成員)

タスパークホテルの 2 階にコワーキングスペースがあり、観光局でも積極的にコワーキングスペースを使うようにしている。コロナの副産物として皆さん当たり前になってきたオンラインミーティングというのが、首都圏の方々や長井市以外の方々と会議をするのに非常に便利で、しかもタスのコワーキングスペースは低料金なので、ここにいらっしゃる方には、まず一度コワーキングスペースご利用していただきたいなという宣伝を行っている。

今タスの使い方として、観光局のお客さんをお呼ぶときに、VIP をお呼びするときの勝利パターンがあり、まずは今申し上げたコワーキングスペースでミーティングをさせていただく。その後、3 階のワーケーションルームもみていただく。そのあと、長井市の行政の方にも結構ご利用いただいているが、

5階のお茶室にご案内し、地元のお茶会の方々がおもてなしをしてくださる。東京からお越しのお客様はまずびっくりする。そこでお茶をおもてなしした後、ホテル内の9階か5階でお食事をしていた。さらにお泊りいただいて、翌日お仕事もしていただきながらお帰りいただくというパターンが今、大変好評をいただいている。5階のお茶室は必ず皆さん感激されて、こんなところが長井にあったんだと皆さんびっくりされる。長井市にお住いの方でもあまりお入りになったことがないと思うので、ぜひこれも1度皆さんにご利用いただきたいなと思う。

資料の道の駅の調査結果について、1番左下にある滞在時間30分未満の車が全体の8割。ということはトイレ行ってお買い物をしてお帰りになる方がほとんどで、通過地点になっている、ちょっともったいないと思い、地場産センターさんが運営されている道の駅に、観光局の事務所も一緒に入っている。これは逆にデータを何か活用しメニューに活かしていただくとか、あと品揃えの変更を検討していただくとかいいデータがとれたとみた。それから取り組み事例の資料の方で6ページの観光分野の取り組み事例については、これと歌山の白浜の事例でかなり先端事例だと感心してみたが、これは観光局でも何か取り込んでいけるか、ぜひ具体的にスタディしたいなと感じた。

(構成員)

スマホをどれぐらい持っている人がいるのか、調べたことはないが、ちょっと認知度が低いのではないかなと思っているところ。やはりスマホがなければできないことなので、高齢者にも多く宣伝していってもらえればありがたいなと思う。このスマホでの決済というのものがコインではあるわけだが、スマホを持っていないとできない。カードの場合は誰でも使えるが、スマホ決済の場合、高齢者もある程度の方が持っているわけだが、逆に若年層、どれくらいの年齢から持っていればいいのか。例えば決済するのに10歳ごろから親がスマホを預けて、スマホ決済でアイス買ってきて頼むのかどうか。その辺もどういうものなのかと思ったところ。長井市全体が誰でもスマホで決済できるような状態になればいいなと思っているところではあるが、小さい幼稚園からスマホを預けるといろいろな問題があったと思うので、どのような対策があるのかと考えているところ。高齢者の方はいろいろPRすれば持つのではないかなと思うが、先ほどからあるように使いこなせないダメなので、やはり講習などを積極的にして行ってもらいたいと思っている。スマートシティ長井ということで、これは非常に最先端をいっていることであるので、これをもっとどんどん積極的に進めていただければ、もっともって長井市の知名度もあがると思っているのでよろしくお願ひしたい。

(内容市長)

先ほどから高齢者がスマホを使いこなすことが、非常に課題だと皆さんからいただいている。郵便局で、実は首都圏で、楽天がスマホを郵便局で販売する実証実験を行った。

私は長井の郵便局でももしその事例でよかったらぜひやってほしいと考えている。郵便局は郡部にも全部あるわけなので、コミセンと郵便局、民間企業とも組んだらいろんなことができる。講習会に個人で呼ぶ方法ではなく、まずはミニディサービス、老人クラブなどの団体で取り組んでもらうということは重要だと思う。これについてはちょっと時間をかけてやるしかない。また、お年寄り向けに千円スマホというのもあり、面倒な機能がない。そんなことなども考えていかなければいけない。

どこの自治体も同様で、お年寄りがスマホを使えないのにこれからデータ化なんて進むのかという話があるかもしれないが、時代はどんどん進むわけで、使いこなせないと不便なところを便利にする機能がやっぱり使えなくなってしまう。これは行政だけではできないので、社会福祉の団体にもご協力いただきながら、ある程度、お年寄りもスマホが使えるように考えたい。お子さんは、やはりスマホは使わない方がよく、それは従来どおりでいいと思う。

(構成員)

老人保健施設で新型コロナのクラスターが発生し、通所リハビリセンターを休止せざるを得ない状況が起きた。その間、お宅に伺うこともできない、リハビリセンターに来ていただくこともできないということで、何もサービス提供できない状態が1か月近く続いた。こうしたときにこのデジタル技術を活用して非接触のサービスを提供できるような検討をこの協議会の中でしていただきたい。例えばeスポーツを活用するなどの方策をこれから検討していただければと要望したい。

(構成員)

先ほどから高齢者がスマホを触ったことがないとかそういうのが出ているが、各コミセンでスマホ

教室開催されていて、大変いいことだと思い、各コミセンに申し込みしたが満杯だった。あとはシルバー人材センターに行っても、もうダメですということだった。やはり興味はあるがどうしたらいいかわからないということで、大変だと思うが回数を増やしていただきたい。例えば、自分もスマホ教室に通いたくなるような楽しい教室が開催されればいいと思う。ぜひこれから回数を多くしていただきたいと思う。スマホを覚えると自分の生活がよくなるか、そういった目的が見いだせない人が多いと思うので、この点を丁寧に説明していけば、私たちも習えば楽しいことができるのだと思う。ぜひ実現してほしいと思う。

あと、先日、野川まなび館で野外 e スポーツを開催されていて、職員の方は大変だろうなと思ったが、大変好評だったので、もしもそういうことができるのであれば、各地区に行くようなこともできたらいいと思った。思いを強くもっている人がいると実現すると思うので、よろしく願いたい。

(構成員)

始めに説明資料にはなかったことだが、市と教育委員会のはからいで、小学校も中学校も全児童生徒が1人1台パソコンをもっているという環境を整備していただいている。1番効果が上がったことの1つは、このコロナ禍なので、自分が陽性でないのにも関わらず、濃厚接触者となって自宅で待機しなければいけないという生徒が、一時期多くいた。そうした子どもが、パソコンの内蔵カメラを使い、黒板や自分のグループと一緒に理科の実験が行えるとか、家に居ながらにしてそういう学習が展開できたことは非常に有効だったと思っている。おかげさまで、長井市においては冬休みを短くしたり春休みを削ったりして授業時間を作らなければいけないという状況はない。先生方も柔軟な対応をしてくれたこともあるが、やはり環境が整わないとできないことなので非常に感謝している。

資料1の15ページで紹介していただいているGPS発信端末を用いた子どもの見守りについて、まだ3校の小学生で実証されているわけだが、今後拡充されていくとお聞きしている。16ページにある通り家庭の方々の評判は上々だと報告も受けている。やはりこれもデータがないと色々な活用ができていかないと思う。予定どおり拡充の方向を検討いただければと思う。あと17ページで、この資料をみて、これはいろんなことに有効に使えらると思う。いろいろなデータを重ね合わせることで、子供が安全安心な環境の中で生活ができる。ここには有害鳥獣と河川の状況が重なっているわけだが、例えば、登下校時間の火災発生や不審者の出没、交通事故というようなことがこのマップ上に表示されることで、自分の子どもがこういった状況にあり、危機を感じさせるようなあり方とか対応が見えてくるものがあるのかと思う。

さらには、市外における校外学習のときに臨時的に持たせるようなことが可能であれば、子どもの活動の範囲が分かったり、あるいは決められた時間、設定された時間にどういった子どもたちが今どこにいるのか把握できたりすることも考えられる。個人情報もあると思うが、臨時的な学習活動に活用できればと思う。これからいろいろなことに活用でき範囲も広がっていくことを期待したい。

4 その他

特になし。

5 閉会

以上